（管理規則第3条実施要領 別紙様式）

No.（1）

2026 年度（令和8年度）学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番 73	福山市立山南小学校
最終更新日	2026年（令和8年）9 月 30 日	

Ⅰ 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ 中学校区

前年度学校運営協議会（学校関係者評価）の主な内容
・義務教育修了段階の子供の姿を共有し、教育活動の充実を図る。 ・小規模校の特色を生かした教育活動を推進する、 ・学力向上に向けて、実態に応じた指導方法を工夫・改善に取り組んでほしい。

児童生徒の現状
・確かな学力の定着や学習習慣の確立及び基礎体力に課題がある。 ・ふるさとに愛着をもつ児童生徒が多く、積極的に地域と関わる学習に取り組むことができる。 ・自分の考えを他者に伝える力が十分でなく、自己肯定感が低い児童・生徒がいる。

育成する資質･能力	主体的に学び合う力
めざすこども像（義務教育修了時の姿）	自ら課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができる子ども
中学校区として統一した取組等	○単元で『身につけるスキル』を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組み、学力の定着・向上を図る。（学力向上部会） ○基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康な子どもたちの育成を図る。（生徒指導部会）

Ⅲ 自 校

学校教育目標
夢をもち 社会で活躍できる児童の育成

現 状
<児童生徒> ・素直で明るく友達と関わることを楽しむ児童が多い。 ・自分の考えを深めたり、理由をもって説明したりすることに課題がある。 ・基礎的な学力の定着に課題が見られる。 （昨年度12月実施 標準学力調査正答率 4年国語70.8%市67.5%、 算数69.2%市64.3% 5年国語66.9%市67.7% 算数52.1%市60.6%） <授業> ・教科部会に分かれ、考えをもつための手立てを交流し、授業に生かしている。 ・児童が自ら考えを広げたり学びを繋げたり場面は、限られている。 ・各学年における到達目標や身に着けるべき内容の明確化が十分とはいえず、系統的な指導や学力の定着に課題がある。

育成する資質･能力		自分から進んで取組む力（主体性）	友達と協力する力（協働性）	目標に向かってやり遂げる力（やりぬく力）
めざすこども像	低学年	自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習する。	自分の意見やアイディアを友達に納得して燃えるように説明しあう。	自分でやると決めたことを最後までやり遂げる。
	中学年	自分の考えを積極的に出す。	友達と協力して、課題やめあてに取り組む。	目標に向かってあきらめずに挑戦する。
	高学年	自分で決めた計画にそって、積極的に調べたり発表したりする。	友達の良いところやアドバイスを生かし合って、よりよいものにしていく。	目標達成に向けて、主体的に取り組む。

研究	テーマ	自分の考えをもち、他者と協働しながら解決しようとする児童の育成
	内容等	子どもたちが何を学ぶのか、どのようなスキルを身につけるのかを明らかにして、協働的な学びを展開する授業づくり
めざす授業の姿		○自分の考えをもつ主体的な学びが行われる授業 ○言葉や数などに着目した対話・傾聴しあえる協働的な学びが行われる授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山南小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
Ⅰ	基礎学力を向上させ、学び続ける児童の育成	★	新規	児童の実態をもとにした指導方法を工夫し、学力の向上を図る。	・帯タイムを活用し漢字計算の反復練習を継続的に行う。 ・教科部会（国・算）を設定し、授業実践の交流や教材研究を行う。	・国語・算数の単元末テスト40%未満の児童を10%以下にする。 ・標準学力調査40%未満の児童を10%以下にする。	□国語・算数の単元末テスト（1～6 年）40%未満の児童は国語1.6%、算数 0%であった。標準学力調査4月(2･3･4･5年)で40%未満の児童は国語10.7%、算数 17.9%であった。 □教科部会（国・算）を定期的に開催し、児童の実態や授業実践を交流するとともに、教材研究を行い、指導方法の工夫・改善を進めている。	3	3	・単元末テスト等の結果を校内・教科部会で共有し、つまずきのある児童を把握することで、帯タイム等を活用した補充・活用学習や反復練習の充実を図る。 ・教科部会で効果的だった実践や教材を共有し、各学年の実践に生かすことで、学校全体の授業力向上につなげる。					
Ⅰ	自他と学校・地域を大切にする児童の育成		新規	児童主体の学習活動を推進し、自己肯定感や郷土愛を高める。	・児童が自ら計画した教育活動を推進するために、地域人材を活用しながら、学習や行事等を通して児童の自己肯定感を高める取組を組織的に行う。	・児童アンケート「自分にはよいところがある」「山南が好きである」で肯定的評価を85%以上にする。	□児童の肯定的評価は、「自分にはよいところがある」65.7%「山南が好きである」95.5%だった。 □児童主体で、一迎会などの行事の企画等を行ったり、運動会の振り返りを、保護者に書いてもらい掲示したりした。	3	3	・今後も、児童主体で企画・実行していく行事等を推進していく。 ・行事ごとに、児童が頑張っている様子が分かる写真や保護者のコメント等を掲示することで、児童が自分のよい点に目を向けられるようにする。					
			新規	自己の生活習慣についての課題を知り、よりよい自分を目指して取り組む。	・生活習慣について目標を設定して取り組み、自己評価する。	・生活振り返り週間で家庭学習とメディアの2項目において、児童の肯定的評価を80%以上にする。	□生活振り返り週間で自己目標を設定する際には、家庭でも協力を得られるように、保健だより等で家庭にも周知して取り組んだ。「家庭学習」91%「メディア」78.7%であった。	3	3	・生活振り返りの結果や児童・家族のコメント等を、保健だよりに掲載するなどして、実践意欲につなげる。 ・児童会や委員会が、規則正しい生活をする意義や必要性を発信する機会をつくる。					
Ⅰ	生き生きと働き、学び続ける教育環境の整備		新規	教職員が主体的に学ぶ機会を増やすとともに、児童と向き合う時間を確保する。	・校外への研修に積極的に参加し、授業実践力を高める。 ・校務支援システムやオンライン連絡ツールを活用し、業務の効率化を行う。	・「仕事にやりがいを感じている」の教職員評価を100%にする。 ・1カ月時間外在校等時間の平均時間、30時間以下の職員を80%以上にする。	□校外への研修に積極的に参加し、授業実践力を高めることができた。「仕事にやりがいを感じている」の教職員評価は 90.9%であった。 □出欠席や入退校管理など校務支援システムを活用することで業務の効率化を行った。4月～9 月の時間外在校等時間の平均時間30時間以下の職員は91.7%であった。	3	3	・引き続き積極的に校外の研修に参加し、授業実践力を高める。また、教職員同士で取組を共有し。子どもの変化や成長を共有する。 ・アンケート、集計、連絡事項をデジタル化するなど、ICT を活用して事務作業を効率化する。会議は必要に応じて時間や参加者をしぼるなど短時間で目的を重視して行う。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40％未満の達成度	目標を達成できなかった。